

## 「第2回 AI 手話翻訳ワークショップ」を開催しました。

2024年7月18日（木）に、国立大学法人名古屋工業大学の産学官交流プラザにて、（社）SiLa 協議会が主催する「第2回 AI 手話翻訳ワークショップ」を開催しました。同ワークショップには、対面で38名、オンラインで24名の合計62名の参加があり、冒頭石原会長より、「学校教育の中で手話を学ぶ機会を増やし、手話を身近なものにすること」、「アカデミアが手話の自動認識の技術を開発する必要があること」、および「手話の言語学と手話に関する情報学が、手話の世界を広げる両輪として機能すること」などのお話がありました。



石原会長の挨拶

ワークショップでは、当協議会における最新の取り組みの紹介に加えて、ソフトバンク（株）、名古屋工業大学（酒向研究室）、トヨタ自動車（株）、（株）ユニオンソフトウェアマネイジメント、アイホン（株）、椙山女学園大学&南山大学の各団体より、手話を画像認識する上で必要となる手話画像データの収集方法や手話を学習するゲーム、さらには医療現場における課題解決の方策など、きこえない人ときこえる人のコミュニケーションを活発化する取り組みの発表と意見交換がありました。また情報保障の仕組みとしては、手話通訳と、（株）リコーの Pekoe を活用し、きこえない人ときこえる人がタイムリーに議論ができる環境を構築しました。

参加者からは、「手話の AI 自動翻訳に関する最新動向を知ることができ、大変有意義であった」、「いろいろな事例や考えを知ることができてよかった」、「自治体の窓口だけでなく、公共施設のインターホンなどにも AI 自動翻訳の機能が搭載されると、きこえない人や支援する人の活動が広がる」など、きこえない人を支援する環境の整備やシステムの早期実用化に関する多くの意見を頂きました。



ワークショップの様子

当協議会では、今後もワークショップやシンポジウムなどの開催を通じて、きこえない人ときこえる人の双方が円滑なコミュニケーションが出来る社会基盤の構築を推進するとともに、協議会の活動に賛同頂ける会員の募集に努めます。

以上